

(様式第 9)

鹿大医歯病総第 5 9 5 号
平成 2 2 年 1 0 月 5 日

九州厚生局長

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院長
高 松 英

鹿児島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 2 1 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	1 4 6 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	182人	215人	358.2人	看護補助者	19人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	105人	47人	148.8人	理学療法士	8人	臨床検査技師	43人
薬 剤 師	33人	7人	40.0人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	2人	その他	4人
助 産 師	20人	1人	20.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	573人	38人	606.4人	臨床工学技士	11人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	2人	0人	2.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	14人
歯科衛生士	10人	4人	14.0人	歯 科 技 工 士	5人	事 務 職 員	122人
管理栄養士	4人	1人	5.0人	診療放射線技師	29人	その他の職員	26人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	5 4 8 . 8 人	2 6 . 8 人	5 7 6 . 6 人
1日当たり平均外来患者数	8 9 3 . 1 人	4 1 2 . 5 人	1 3 0 5 . 5 人
1日当たり平均調剤数	1 0 2 9 . 5 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	55人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	37人	・広範脊柱管狭窄症	17人
・重症筋無力症	73人	・原発性胆汁性肝硬変	13人
・全身性エリテマトーデス	196人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	49人
・再生不良性貧血	31人	・混合性結合組織病	22人
・サルコイドーシス	66人	・原発性免疫不全症候群	10人
・筋萎縮性側索硬化症	13人	・特発性間質性肺炎	18人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	143人	・網膜色素変性症	35人
・特発性血小板減少性紫斑病	44人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	19人	・肺動脈性肺高血圧症	8人
・潰瘍性大腸炎	40人	・神経線維腫症	31人
・大動脈炎症候群	19人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	13人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	5人
・天疱瘡	6人	・慢性血栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	45人	・ライソゾーム病	9人
・クローン病	29人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	5人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	7人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	48人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	4人
・後縦靭帯骨化症	63人	・肥大型心筋症	0人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	18人	・ミトコンドリア病	5人
・ウェゲナー肉芽腫症	10人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	36人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	14人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	43人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
1	動脈硬化症疾患の危険因子の性差と予防に関するコホート研究	鄭忠和(主任 国立循環器病センター内藤博昭)	第一内科	1,000	補 委 厚生労働省
2	特発性心筋症に関する調査研究	鄭忠和(主任 国立循環器病センター北風政史)	第一内科	1,100	補 委 厚生労働省
3	女性外来と千葉県大規模コホート調査を基盤とした性差を考慮した生活習慣病対策の研究	嘉川亜希子(主任 千葉県生成研究所 天野恵子)	第一内科	1,000	補 委 厚生労働省
4	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	渡辺 守 (分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	1,000	補 委 厚生労働省
5	IgG4関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療法に関する研究	岡崎 和一 (分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	2,000	補 委 厚生労働省
6	シュガーチップと糖鎖固定化金ナノ粒子を用いたウイルス性疾患の超早期検査・診断法の開発	隅田泰生 (分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	1,000	補 委 厚生労働省
7	B型及びC型肝炎ウイルスの感染による肝がん発症の病態解明とその予防・治療法に関する研究	林 紀夫 (分担) 坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	2,500	補 委 厚生労働省
8	免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	持田 智 (分担) 井戸章雄	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	500	補 委 厚生労働省
9	ジェノミクス技術を用いたウイルス性肝炎に対する新規診断・治療法の開発	金子 周一 (分担) 宇都浩文	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	2,500	補 委 厚生労働省
10	非アルコール性脂肪性肝疾患の病態解明と診断法、治療法に関する研究	岡上 武 (分担) 宇都浩文	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	1,500	補 委 厚生労働省
11	肝硬変を含めたウイルス性肝疾患の治療の標準化に関する研究	熊田 博光 (分担) 桶谷 眞	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	2,000	補 委 厚生労働省
12	経口感染する肝炎ウイルス(A型、E型)の感染防止、遺伝的多様性、および治療に関する研究	矢野 公士 (分担) 桶谷 眞	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	1,000	補 委 厚生労働省
13	難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	坪内博仁 (代表)	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	65,000	補 委 厚生労働省
14	肝細胞増殖因子を用いたiPS細胞の肝細胞分化誘導	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	2,200	補 委 文部科学省
15	HGFによる肝発生・分化制御機序解明に基づく肝再生医療基盤技術創出	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	13,000	補 委 文部科学省
16	プロテオミクスを用いた非アルコール性脂肪肝炎の診断マーカーの探索と検証	宇都浩文	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	1,300	補 委 文部科学省
17	プロテオミクスにより同定化されたヒト好中球ペプチドの腸管炎症への影響の検討	上村修司	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	3,100	補 委 文部科学省
18	HGFによる肝細胞分化誘導メカニズムの解明	高見陽一郎	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	2,700	補 委 文部科学省
19	発症危険度判別によるATL発症リスク診断システムの開発	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	6,000	補 委 宮崎県産業支援財団
20	内科学に関する研究	坪内博仁	消化器疾患・生活習慣病学(消化器内科)	1,500	補 委 高原町

資料 5

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
21	一本鎖DNA修復異常症SCAN1の神経変性機構の解明	高嶋 博	神経内科	2,400	補 委 日本学術振興会
22	G型コラーゲン関連筋疾患の治療法開発に関する研究	樋口 逸郎	神経内科	1,500	補 委 日本学術振興会
23	Deserthehog遺伝子変異による神経障害の病態解明と治療法の開発	梅原 藤雄	神経内科	1,500	補 委 日本学術振興会
24	ニューロパチーの病態解明に関する研究	高嶋 博	神経内科	14,000	補 委 厚生労働省
25	運動失調症に関する調査研究	高嶋 博	神経内科	1,500	補 委 厚生労働省
26	慢性炎症性脱髄性多発神経炎の臨床情報・生体バンクの構築	高嶋 博	神経内科	800	補 委 厚生労働省
27	封入体筋炎 (IBM)の臨床病理学的調査および診断基準の精度向上に関する研究	樋口 逸郎	神経内科	1,200	補 委 厚生労働省
28	免疫性神経疾患に関する調査研究	梅原 藤雄	神経内科	1,400	補 委 厚生労働省
29	急性脳炎のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明から新たな治療法確立に向けた研究	渡邊 修	神経内科	1,100	補 委 厚生労働省
30	糖尿病多発神経障害の臨床病期分類の確立と病期に基づいた治療ガイドラインの作成	出口 尚寿	糖尿病・内分泌内科	800	補 委 厚生労働省
31	難治性ニューロパチーの病態に基づく新規治療法の開発	有村 公良	神経内科	3,600	補 委 国立精神・神経センター
32	筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	樋口逸郎	神経内科	1,200	補 委 国立精神・神経センター
33	難治性ニューロパチーの診断技術と治療法の開発に関する研究	高嶋 博	神経内科	1,400	補 委 国立精神・神経センター
34	筋ジストロフィーおよびその関連疾患の分子病態解明、診断法確立と薬物治療の開発に関する研究	樋口逸郎	神経内科	1,000	補 委 国立精神・神経センター
35	脳卒中患者の感覚障害に対する末梢神経刺激、中枢神経刺激併用の集中的治療	衛藤誠二	リハビリテーション科	1,430	補 委 日本学術振興会
36	筋力増強・廃用性筋力低下における筋代謝マーカーの分子生物学的検討と臨床応用	池田聡	リハビリテーション科	8,710	補 委 日本学術振興会
37	温度受容体の神経因性膀胱治療への応用に向けた基礎的研究	吉田輝	リハビリテーション科	1,300	補 委 日本学術振興会
38	運動療法の効果と神経栄養因子や神経伝達物質の変化に関する研究	大渡昭彦	リハビリテーション科	1,170	補 委 日本学術振興会
39	脳卒中片麻痺上肢の促進療法のための電磁石を用いた伸張反射誘発力覚提示装置の開発	林良太分担者：川平和美、下堂菌恵	リハビリテーション科	2,200	補 委 日本学術振興会
40	目標運動誘発より指随意運動を促進する片麻痺指機能回復訓練システムの開発と臨床応用	余永、分担者：川平和美、下堂菌恵	リハビリテーション科	1,700	補 委 日本学術振興会
41	促進刺激法と免荷装置を併用した高機能片麻痺上肢訓練システムの開発	林良太、共同研究者：川平和美、下堂菌恵	リハビリテーション科	2,000	補 委 科学技術振興機構
42	舌の高次感覚・運動障害に対する新しい評価・治療法の開発	河岸重則、下堂菌恵	リハビリテーション科	1,200	補 委 日本学術振興会

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
43	摂食・嚥下リハビリテーションにおける新しい訓練・評価システムの開発	吉野 賢一、下堂 菫恵	リハビリテーション科	2,200	補 委 日本学術振興会
44	摂食・嚥下障害に対する顎口腔機能評価および訓練法の標準化	中村康典、下堂 菫恵	リハビリテーション科	1,800	補 委 日本学術振興会
45	筋疲労と運動学習が脳の運動野および感覚野の可塑的変化に及ぼす影響	丸山敦夫、衛藤誠 二	リハビリテーション科	3,600	補 委 日本学術振興会
46	関節リウマチの治療予後予測因子としてのTRAF1遺伝子多型の重要性についての検討	古田貴志	リハビリテーション科	560	補 委 日本学術振興会
47	精神障害における神経有棘赤血球症遺伝子群の関わりに関する総合的研究	佐野 輝	精神機能病学分野	6,500	補 委 文部科学省
48	精神疾患と有棘赤血球舞踏病病因遺伝子のコピー数多型解析	中村 雅之	精神機能病学分野	2,300	補 委 文部科学省
49	舞踏病原因遺伝子VPS13Aによる神経細胞死制御機構	佐野 輝	精神機能病学分野	2,300	補 委 文部科学省
50	有棘赤血球舞踏病の疫学調査と診断法の確立および分子病態の解明	佐野 輝	精神機能病学分野	5,000	補 委 厚生労働省
51	精神疾患における神経有棘赤血球関連遺伝子群のコピー数変異に関する研究	佐野 輝	精神機能病学分野	1,000	補 委 精神神経系薬物治療研究 基金研究助成金
52	ヒト造血幹細胞の加齢に関する研究	河野嘉文	小児科	1,400	補 委 日本学術振興会
53	炎症と細胞障害に関する核内蛋白・HMGB1による新しい川崎病重症度評価	野村裕一	小児科	900	補 委 日本学術振興会
54	新興病原菌としての腸管凝集性大腸菌の分子疫学研究とイムノクロマト迅速診断法の開発	西順一郎	小児科	1,000	補 委 日本学術振興会
55	環境介入による薬剤耐性菌の発生制御を目指す研究	竹内 亨 (代表) 西 順一郎 (分担)	小児科	280	補 委 日本学術振興会
56	ヒブワクチン導入前後のインフルエンザ菌莖膜遺伝子重複と抗体親和力の研究	徳田浩一	小児科	1,500	補 委 日本学術振興会
57	再生不良性貧血におけるHIF-1 α を介したVEGFの調節機構の解明	児玉裕一	小児科	1,300	補 委 日本学術振興会
58	再発等の難治性造血器腫瘍に対する同種造血幹細胞移植を用いた効果的治療法確立に関する研究	森 慎一郎 (代表) 河野嘉文 (分担)	小児科	1000	補 委 厚生労働省
59	神経芽腫におけるリスク分類にもとづく標準的治療の確立と均てん化および新規診断・治療法の開発研究	池田均 (代表) 河野嘉文 (分担)	小児科	500	補 委 厚生労働省
60	法制化後の小児慢性特定疾患の登録・管理・治療に関する研究	藤本純一郎 (代表) 武井修治 (分担)	小児科	1,000	補 委 厚生労働省
61	小児期のリウマチ・膠原病の難治性病態の診断と治療に関する研究	横田俊平 (代表) 武井修治 (分担)	小児科	500	補 委 厚生労働省
62	小児線維筋痛症の診断と病態解明に関する研究	横田俊平 (代表) 武井修治 (分担)	小児科	500	補 委 厚生労働省
63	重症川崎病患者に対する免疫グロブリン・ステロイド初期併用投与の効果を検討する前方視的無作為化比較	野村裕一 (分 担)	小児科	2,000	補 委 厚生労働省
64	食中毒調査の精度向上のための手法等に関する調査研究	岡部信彦 (代表) 徳田浩一 (分担)	小児科	1,000	補 委 厚生労働省

資料 5

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
65	ヒトヘルペスウイルス感染症と抗リン脂質抗体に関する研究	豊島光雄	小児科	450	補 厚生労働省
66	難治性小児悪性腫瘍に対するNK細胞療法の確立	岡本康裕	小児科	100	委補 鹿児島県医師会
67	消化器癌のリンパ節微小転移の臨床的意義の解明	夏越 祥次	第一外科	5,200	委補 日本学術振興会
68	肝発癌過程における組織炎症恒久化因子の同定と制御に関する基礎的・臨床的検討	上野 真一	第一外科	900	委補 日本学術振興会
69	免疫機構を応用した癌リンパ節微小転移の制御に関する基礎的・臨床的研究	石神 純也	第一外科	2,900	委補 日本学術振興会
70	整容性を考慮した乳房温存時における遊離真皮脂肪片移植の正着機序の解明と臨床応用	喜島 祐子	第一外科	700	補 日本学術振興会
71	消化器癌における循環癌細胞とリンパ節微小転移の臨床的意義	上之園芳一	第一外科	1,000	委補 日本学術振興会
72	リンパ行性転移におけるリンパ管新生とリンパ節微小転移の意義の解明	蔵原 弘	第一外科	900	委補 日本学術振興会
73	生検標本を用いた食道扁平上皮癌のリンパ節転移予測に関する研究	内門 泰斗	第一外科	1,100	委補 日本学術振興会
74	消化器外科手術における合成吸収糸使用の手術部位感染抑制効果に関する多施設共同並行	(分担) 夏越 祥次	第一外科	300	委補 厚生労働省
75	高精度の分子遺伝学的評価による食道癌治療成績向上のための包括的研究	(分担) 夏越 祥次	第一外科	2,000	委補 日本学術振興会
76	消化器癌のステージ診断、血清サンプリング	(分担) 夏越 祥次	第一外科	300	委補 日本学術振興会
77	切除可能中等度進行食道癌の治療、食道切除か根治的放射線治療か：多施設研究	(分担) 夏越 祥次	第一外科	50	委補 日本学術振興会
78	糖尿病患者における血管イベント発症に関する後ろ向きコホートに関する研究	久 容輔	心臓血管外科	560	補 厚生労働省
79	下垂体腺腫における腫瘍幹細胞の実態とその機能および分化に関する研究	有田和徳	脳神経外科	1,300	委補 日本学術振興会
80	悪性グリオーマにおけるWntシグナル活性化の検討と診断・治療への応用	平野宏文	脳神経外科	900	委補 日本学術振興会
81	間脳下垂体機能障害に関する調査研究 (大磯班)	有田和徳	脳神経外科	1,800	委補 厚生労働省
82	難治性内分泌腫瘍の診断と治療に関する研究 (島津班)	有田和徳	脳神経外科	1,500	委補 厚生労働省
83	ポリコーム蛋白の機能とターゲット遺伝子解明による関節リウマチ分子標的治療法開発	小宮節郎	整形外科	900	委補 日本学術振興会
84	変形性関節症の病態解明-GADD45ベータトランスジェニックマウスの解析-	井尻幸成	整形外科	1,000	委補 日本学術振興会
85	骨軟部肉腫幹細胞をターゲットとした分子標的治療法開発研究	瀬戸口啓夫	整形外科	3,000	補 日本学術振興会
86	骨軟部肉腫に対する新規遺伝子治療法-腫瘍内ウイルス拡散をターゲットとして	永野 聡	整形外科	2,000	委補 日本学術振興会

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
87	中国東北地方の悪性腫瘍と関連疾患の発症要因の学術調査	金蔵拓郎	皮膚科	4,200	補 委 日本学術振興会
88	CD147/Basiginを標的とした新たな皮膚癌治療戦略の構築	金蔵拓郎	皮膚科	3,810	補 委 日本学術振興会
89	マイクロRNA発現制御による尿路上皮癌の新規治療の開発	中川 昌之	泌尿器科	4,030	補 委 日本学術振興会
90	尿中メチル化DNA測定による新しい前立腺癌診断キットの開発	榎田 英樹	泌尿器科	2,080	補 委 日本学術振興会
91	microRNA発現プロファイルに基づく膀胱癌の新規治療の開発	川元 健	泌尿器科	1,690	補 委 日本学術振興会
92	早期前立腺がんにおける根治術後の再発に対する標準的治療法の確立に関する研究	中川 昌之	泌尿器科	300	補 委 厚生労働省
93	血清・尿中マイクロRNA同定による尿路上皮がん診断	榎田 英樹	泌尿器科	1,800	補 委 科学技術振興機構
94	硝子体の研究：環境解析とその制御およびそれを利用した治療開発	坂本泰二	眼科	3,770	補 委 日本学術振興会
95	超音波とバブルリボソームを使った薬物送達法の開発～眼球用超音波照射装置の開発～	坂本泰二	眼科	1,300	補 委 日本学術振興会
96	バブルリボソームと超音波を利用した前房内薬物送達・遺伝子導入法の開発	内野英輔	眼科	2,340	補 委 文部科学省
97	網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	小椋祐一郎(分担：坂本泰二)	眼科	3,000	補 委 厚生労働省
98	未熟児網膜症の新規手術法開発後の治療プロトコルの標準化	東 範行(分担：坂本泰二)	眼科	1,500	補 委 厚生労働省
99	内臓脂肪と皮下脂肪由来の液性因子の骨塩量に及ぼす非荷重効果の差に関する研究	堂地 勉	生殖病態生理学 産婦人科	1,040	補 委 日本学術振興会
100	心肺蘇生に対する水素ガス吸入の効果	松永 明	侵襲制御学分野・麻酔 全身管理センター (麻酔科)	700	補 委 日本学術振興会
101	周術期に術後鎮痛のために投与されたフェンタニルの乳汁中移行に関する検討	永田 悦朗	侵襲制御学分野・麻酔 全身管理センター (麻酔科)	910	補 委 日本学術振興会
102	難治性神経代謝疾患に対するトランスレーショナルリサーチ	乾 明夫	心身医療科	6,900	補 委 日本学術振興会
103	心身のストレス予防効果：ストレスケアドッグの提案	中原敏博	心身医療科	100	補 委 日本学術振興会
104	適正体重維持とストレス応答―脳腸相関、脳脂相関、脂腸相関、三軸からのアプローチ	浅川明弘	心身医療科	500	補 委 日本学術振興会
105	霊長類を用いた食及び情動行動に関する研究	乾 明夫	心身医療科	1,500	補 委 日本学術振興会
106	頭頸部癌治療による口腔粘膜障害低減を目指した内因性酸化ストレス抑制療法法の確立	馬嶋秀行	顎顔面放射線学	1,430	補 委 日本学術振興会
107	ピンホールコロリメータを応用した微小転移リンパ節の分子イメージングシステムの開発	佐藤強志	顎顔面放射線学	650	補 委 日本学術振興会
108	核医学における放射性薬品輸送蛋白の腫瘍マーカーとしての可能性の検討	川畑義裕	顎顔面放射線科	650	補 委 日本学術振興会

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
109	放射線耐性に対するミトコンドリアの役割解明研究	馬嶋秀行	顎顔面放射線学	11,999	補 委 農産生物資源研究所
110	発酵法による高度機能化技術	馬嶋秀行	顎顔面放射線学	13,000	補 委 農産・食品産業技術総合研究機構
111	VF検査に代わる非侵襲的な嚙下検査の構築	豊里 晃 梶山加綱	歯科麻酔科	2,470	補 委 日本学術振興会
112	スタチンによる手術後認知機能低下の予防に関する基礎的研究	糺谷 淳	歯科麻酔科	1,000	補 委 日本学術振興会
113	睡眠時の口腔咽頭食道内の酸のクリアランスと酸関連上部消化器疾患に対する咬合の影響	宮脇正一	矯正歯科	4,420	補 委 日本学術振興会
114	食道内への胆汁逆流が睡眠時ブラキシズムに及ぼす影響を明らかにする研究	大牟禮治人	矯正歯科	1,430	補 委 日本学術振興会
115	MyD88ノックアウトマウスを用いた矯正学的歯の移動における炎症様反応機構の解明	前田 綾	矯正歯科	1,950	補 委 日本学術振興会
116	胃食道酸逆流モデルラットにおけるブラキシズム様運動を誘発するメカニズムの解明	上村裕希	矯正歯科	780	補 委 日本学術振興会
117	小児の睡眠障害およびブラキシズムとストレス、呼吸消化器症状、顎顔面形態との関連	坂口勝義	矯正歯科	2,470	補 委 日本学術振興会
118	骨理モデリングに関わる骨芽細胞の増殖・分化・機能活性におけるMx2の役割	山本芳丈	矯正歯科	2,210	補 委 文部科学省
119	コーンビームX線CTによる小児の気道と顎顔面形態の流体力学的研究	岩崎智憲	小児歯科	780	補 委 日本学術振興会
120	ジルコニアナノ界面制御型接着システムの創製	佐藤秀夫	小児歯科	2,730	補 委 日本学術振興会
121	繊維芽細胞増殖因子の発現を介した血小板由来増殖因子による唾液腺形態形成の制御	山本晋也	小児歯科	2,210	補 委 日本学術振興会
122	有茎自家骨トランスポートと吸収性人工骨を応用した新たな生体模倣型骨造成法の開発	白方良典	歯周病科	1,800	補 委 文部科学省
123	口臭の病態解析と新規口臭抑制剤の開発	武内博信	歯周病科	300	補 委 九地連公募研究事業助成金
124	TNFファミリーの制御を基盤とした新規歯周病治療薬の開発とメカニズムの解明	町頭三保	歯周病科	1,170	補 委 文部科学省
125	歯周病が早産・低体重児出産に与える影響に関する包括的研究	長谷川梢	歯周病科	2,470	補 委 文部科学省
126	iPS細胞による歯周組織再生とその細胞分化の遺伝子発現解析	迫田賢二	歯周病科	1,000	補 委 文部科学省
127	2相性作用型再生移植材と細胞移植によるインプラント周囲炎治療法の確立	松山孝司	歯周病科	1,430	補 委 文部科学省
128	iPS細胞の歯周組織幹細胞への分化誘導機構の解明—幹細胞ニッチからのアプローチ	迫田賢二	歯周病科	2,210	補 委 文部科学省
129	iPS細胞を用いた歯周組織再生療法に関する総合的研究	野口和行	歯周病科	6,240	補 委 文部科学省

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
130	生体活性化表面改質法によるジルコニアインプラントの開発と生体適合性評価	山下大輔	歯周病科	1,560	補 委 文部科学省
131	ジルコニアインプラントの軟組織における生体適合性評価と効果的除染法の確立	武内博信	歯周病科	2,346	補 委 文部科学省
132	内因性カンナビノイドを介する歯周病と動脈硬化性疾患の関連性	中島結実子	歯周病科	1,170	補 委 文部科学省
133	機能性に優れたウレタン系軟性裏装材の開発と臨床応用に関する研究	門川明彦	咬合機能補綴学 (冠・ブリッジ科)	1,000	補 委 日本学術振興会
134	口腔癌における癌関連遺伝子のスプライシング異常の検討	杉原一正	口腔外科	2,080	補 委 日本学術振興会
135	口腔癌におけるMIC1遺伝子スプライシングバリエーションの発現とその意義	浜田倫史	口腔外科	1,820	補 委 日本学術振興会
136	顎骨骨増生に対する骨補填材・骨成長因子に関するエビデンスを得るための臨床応用研究	西原 一秀	口腔顎顔面外科	1,560	補 委 日本学術振興会
137	摂食・嚥下障害に対する顎口腔機能評価および訓練法の標準化	中村 康典	口腔顎顔面外科	390	補 委 日本学術振興会
138	口腔前癌病変における解糖系代謝活性とその意義	宮脇 昭彦	口腔顎顔面外科	2,990	補 委 日本学術振興会
139	口腔扁平上皮癌リンパ節転移とVEGF発現との関連の基礎的研究	石田 喬之	口腔顎顔面外科	780	補 委 日本学術振興会
140	鼻咽腔閉鎖不全の診断の根拠となる客観的開鼻声検査基準値の設定	五味 暁憲	口腔顎顔面外科	3,250	補 委 日本学術振興会
141	医療面接シミュレータによる生涯教育と地域連携データベースの応用に関する評価研究	熊本一朗	医療情報部	500	補 委 日本学術振興会
142	医薬品副作用シグナル検知システムへのテキストマイニング技術の応用に関する研究	村永文学	医療情報部	500	補 委 日本学術振興会
143	平成21年度HIV感染者等保健福祉相談事業	古川良尚	輸血部	1,000	補 委 エイズ予防財団
144	抗癌剤で誘導されるヴォールトの発現亢進機序と抗癌剤耐性機構の解明	山田勝士	薬剤部	1,600	補 委 日本学術振興会
145	難治性てんかんに関わるコンタクチン関連蛋白質の分子間相互作用の解析	武田泰生	薬剤部	900	補 委 日本学術振興会
146	個別化医療に向けた抗がん剤感受性試験法の確立と臨床的有用性に関する研究	牛山美奈	薬剤部	590	補 委 日本学術振興会
147	リネゾリドの有効血中濃度域の検討	松元一明	薬剤部	580	補 委 日本学術振興会
148	関節リウマチ治療予後予測因子としてのTRAF1遺伝子多型の重要性についての検討	古田貴志	薬剤部	560	補 委 日本学術振興会
149	増粘剤を用いた経腸栄養剤の胃内固形化における増粘効果の実験的検討	深水知英	薬剤部	350	補 委 日本学術振興会
150	病院における実務実習初年度における受入れ体制の実態と問題点	下堂苗権洋	薬剤部	100	補 委 九州山口薬学会

資料 5

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (千円)	補助元又は委託元
151 近赤外時間分解分光システムを用いた周術期脳障害モニタリング法の開発	垣花泰之	集中治療部	11,050	補 委 日本学術振興会

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
成人病と生活習慣病 2009;39:209-214	末梢動脈疾患 (PAD) の和温療法	鄭忠和他	第一内科
Circulation Journal 2009;73:434-435	New Approaches to the Evaluation of Coronary Endothelial Function-Direct Measurement of Intra-Arterial No Concentration In Vivo-	Tei C, et al.	第一内科
J Cardiology 2009;53:214-218	Waon therapy improves the prognosis of patients with chronic heart failure.	Tei C, et al.	第一内科
J Cardiology 2009;53:437-446	Left ventricular systolic function is abnormal in diastolic heart failure:Re-assessment of systolic function using cardiac	Tei C, et al.	第一内科
Hypertention Research 2009;32:716-720	Noninvasive indices of arterial stiffness in hemodialysis patients.	Tei C, et al.	第一内科
JMAJ 2009;52:191-193	Pleiotropic Effect of Waon Therapy.	Tei C, et al.	第一内科
日本医師会雑誌 2009;138:298-299	高齢者診療マニュアル (心筋梗塞)	鄭忠和他	第一内科
Atherosclerosis 2010;208:97-103	Tacrolimus-eluting stent inhibits neointimal hyperplasia via calcineurin/NFAT signaling in porcine coronary artery model.	Tei C, et al.	第一内科
Foot Ulcers:Causes Diagnosis, and Treatments	Beneficial Effect of Waon Therapy on Peripheral Arterial Disease.	Tei C, et al.	第一内科
J Atherosclerosis and Thrombosis 2009;16:840- 845	Deficiency of Clusterin Inhibits Neointimal Hyperplasia After Vascular Injury.	Tei C, et al.	第一内科
J Atherosclerosis and Thrombosis 2009;16:772- 781	Association between Arterial Stiffness and Estimated Glomerular Filtration Rate in the Japanese General Population.	Tei C, et al.	第一内科
Circulation Journal 2010;74:617-621	Waon Therapy for Cardiovascular Disease - Innovative Therapy for the 21st Century-	Tei C, et al.	第一内科
Heart Vessels 2010;25:113-120	Enjoying hobbies is related to desirable cardiovascular effects.	Tei C, et al.	第一内科
Hepatol Res.	Proanthocyanidin derived from the leaves of Vaccinium virgatum suppresses platelet-derived growth factor-induced proliferation of the human hepatic stellate cell line LI90.	Uto H, Moriuchi A, Oketani M, Ido A, Tsubouchi H	消化器疾患・生活習慣 病学 (消化器内科)
J Gastroenterol.	The complement component C3a fragment is a potential biomarker for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	Kanmura S, Uto H, Moriuchi A, Oketani M, Ido A, Tsubouchi H	消化器疾患・生活習慣 病学 (消化器内科)
J Gastroenterol.	Clinical significance of alanine aminotransferase levels and the effect of ursodeoxycholic acid in hemodialysis patients with chronic hepatitis C.	Uto H, Oketani M, Nosaki T, Moriuchi A, Ido A, Tsubouchi H	消化器疾患・生活習慣 病学 (消化器内科)
Hepatol Int.	Antiviral activity, dose-response relationship, and safety of entecavir following 24-week oral dosing in nucleoside-naive Japanese adult patients with chronic hepatitis B: a randomized, double-blind.	Tsubouchi H	消化器疾患・生活習慣 病学 (消化器内科)
Hepatol Res.	Translational research to identify clinical applications of hepatocyte growth factor.	Ido A, Tsubouchi H	消化器疾患・生活習慣 病学 (消化器内科)
Hepatology.	Increased rate of death related to presence of viremia among hepatitis C virus antibody-positive subjects in a community-based cohort	Uto H, Moriuchi A, Oketani M, Ido A, Tsubouchi H	消化器疾患・生活習慣 病学 (消化器内科)
J Biol Chem.	Proanthocyanidin from blueberry leaves suppresses expression of subgenomic hepatitis C virus RNA.	Uto H, Tsubouchi H	消化器疾患・生活習慣 病学 (消化器内科)
J Hepatobiliary Pancreat Surg.	Surgical resection versus radiofrequency ablation for small hepatocellular carcinomas within the Milan criteria.	Tsubouchi H	消化器疾患・生活習慣 病学 (消化器内科)
J Med Genet.	Schimke immuno-osseous dysplasia: SMARCA1 loss-of-function and phenotypic correlation.	Takashima H.	神経内科

Retrovirology	In vivo expression of the HBZ gene of HTLV-1 correlates with proviral load, inflammatory markers and disease severity in HTLV-1 associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP).	Matsuzaki T.	神経内科
Diabet. Med.	Serum VEGF increases in diabetic polyneuropathy, particularly in the neurologically active symptomatic stage.	Deguichi T.	神経内科
J. Hum. Genet.	Clinical and genetic characterization of 16q-linked autosomal dominant spinocerebellar ataxia in South Kyushu, Japan.	Hirano R.	神経内科
Neurology	Neural damage associated with atopic diathesis: a nationwide survey in Japan.	Arimura K.	神経内科
Int J Mol Med.	Role of Kenae/CCDC125 in cell motility through the deregulation of RhoGTPase.	Arimura H.	神経内科
J Neuropathol Exp Neurol.	Reduced expression of excitatory amino acid transporter 2 and diffuse microglial activation in the cerebral cortex in AIDS cases with or without HIV encephalitis.	Hayakawa H.	神経内科
Neuropathology	In vivo expression of proinflammatory cytokines in HIV encephalitis: an analysis of 11 autopsy cases.	Hayakawa H.	神経内科
J Neurol Sci.	Induction of paranodal myelin detachment and sodium channel loss in vivo by Campylobacter jejuni DNA-binding protein from starved cells (C-Dps) in myelinated nerve fibers.	Umehara F.	神経内科
J Med Genet.	Schimke immuno-osseous dysplasia: SMARCA1 loss-of-function and phenotypic correlation.	Takashima H.	神経内科
J Hum Genet.	Clinical and genetic characterization of 16q-linked autosomal dominant spinocerebellar ataxia in South Kyushu, Japan.	Hirano R.	神経内科
PLoS Pathogen	High expression of CD244 and SAP regulated CD8 T cell responses of patients with HTLV-I associated neurologic disease.	Matsuura E.	神経内科
Neurology	Neural damage associated with atopic diathesis: a nationwide survey in Japan.	Arimura K.	神経内科
Int J Mol Med.	Role of Kenae/CCDC125 in cell motility through the deregulation of RhoGTPase.	Arimura H.	神経内科
J Neurol Sci	Induction of paranodal myelin detachment and sodium channel loss in vivo by Campylobacter jejuni DNA-binding protein from starved cells (C-Dps) in myelinated nerve fibers.	Umehara F.	神経内科
内科	集学的治療により下肢切断を免れた重症糖尿病足感染症の1例	堀之内秀治	神経内科
糖尿病	頭部MRIで異常所見を呈さなかった糖尿病性舞踏病の1例	堀之内秀治	神経内科
International Journal of Rehabilitation Research 32 (2): 178-183, 2009	Improvements in limb kinetic apraxia by repetition of a newly designed facilitation exercise in a patient with corticobasal degeneration.	Kazumi KAWAHIRA	リハビリテーション科
Int J Neurosci 120 (3): 231-5, 2010	Stroke patient with mirror movement of the affected hand due to an ipsilateral motor pathway confirmed by transcranial magnetic stimulation: a case report	Seiji Etoh	リハビリテーション科
Brain Injury 23 (13-14): 1065-72, 2009.	Effect of the angiotensin II type 1 receptor antagonist olmesartan on cerebral hemodynamics and rehabilitation outcomes in hypertensive post-stroke patients	Shuji Matsumoto	リハビリテーション科
Hypertension Research 32 (11): 1015-21, 2009	Benefits of the angiotensin II receptor antagonist olmesartan in controlling hypertension and cerebral hemodynamics after	Shuji Mastumoto	リハビリテーション科
Disability and Rehabilitation 31 (21): 1773-1779, 2009	Use of calcitonin to prevent complex regional pain syndrome type I in severe hemiplegic patients after stroke	Satoru Matayoshi	リハビリテーション科

Brain Injury. 23 (7): 623-631, 2009	Antispastic effects of the direct application of vibratory stimuli to the spastic muscles of hemiplegic limbs in post-stroke patients.	Tomokazu Noma T	リハビリテーション科
臨床脳波52 (1): 58-61, 2010	経頭蓋磁気刺激と促通反復療法を併用し、手指機能を改善させた脳卒中片麻痺の症例	衛藤誠二	リハビリテーション科
Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 47 (3): 156-159, 2010	片麻痺のリハビリテーション効果を高める工夫—経頭蓋磁気刺激、促通反復療法、振動刺激	衛藤誠二	リハビリテーション科
Clinical Neuroscience 27 (4): 414-416, 2009	特集「頭頂連合野の機能と障害」 頭頂連合野の個別機能、身体認知・注意の障害、鏡像課題の障害	川平和美	リハビリテーション科
MB Med Reha 114: 18-22, 2010	脳可塑性研究の動向	池田聡	リハビリテーション科
Jpn J Rehabil Med 46: 411-414, 2009	脳血栓片麻痺モデル：機能回復と神経栄養因子	池田聡	リハビリテーション科
Jpn J Rehabil Med 46: 681-704, 2009	学生がリハビリテーション科医に興味を持つには	池田聡	リハビリテーション科
JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 18 (9): 823-827, 2009	高次脳機能障害の検査と解釈 BADS (Behavioural Assessment of the Dysexecutive Syndrome)	緒方敦子	リハビリテーション科
臨床と新薬 59巻1号: 60-64, 2010	脳梗塞再発予防におけるリスク評価の工夫	松元秀次	リハビリテーション科
CLINICIAN 581 (10): 832-834	温泉を用いた部分浴の効果について	川平和美	リハビリテーション科
Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet	Gene expression and association analyses of the PDE4B (Phosphodiesterase 4B) gene in major depressive disorder in the Japanese	Numata S. Sano A. et al	精神機能病学分野 (神経科精神科)
九州神経精神医学	プライマリケア医のうつ病診療に関する実態調査	石田 康 他	精神機能病学分野 (神経科精神科)
Brain Res	ATF3 plays a protective role against toxicity by N-terminal fragment of mutant huntingtin in stable PC12 cell line.	Liang Y. Nakamura M. et al	精神機能病学分野 (神経科精神科)
九州神経精神医学	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 健康科学専攻 社会・行動医学講座 精神機能病学分野の	赤崎安昭 他	精神機能病学分野 (神経科精神科)
強迫性障害の研究	強迫症状を認めた velocardiofacial syndrome の1症例	市場美緒 他	精神機能病学分野 (神経科精神科)
九州神経精神医学	リスベリドン内服中に単源性多発性の心室性期外収縮がみられた初発統合失調症の症例	林 岳宏 他	精神機能病学分野 (神経科精神科)
Pediatr Infect Dis J. 2009;28 (4):339-341	An elevated value of high mobility group box 1 is a potential marker for poor response to high-dose of intravenous immunoglobulin treatment in patients with Kawasaki syndrome.	Eguchi T, et al.	小児科
Neurol Med Chir (Tokyo) 2009;49 (6):269-72	Transethmoidal meningoencephalocele involving the olfactory bulb with enlarged foramina of the lamina cribrosa—case report.	Toyoshima M, et al.	小児科
Pediatr Transplant. 2009;13 (6):769-772	Continued complete remission without systemic therapy for isolated testicular relapse after bone marrow transplantation in a boy with acute lymphoblastic leukemia.	Kodama Y, Okamoto Y, et al.	小児科
Pediatr Transplant. 2009;13:641-644	Calcineurin-inhibitor-induced pain syndrome after a second allogeneic bone marrow transplantation for a child with aplastic anemia.	Nishikawa T, Okamoto Y, et al.	小児科
Internal Med 2009;48:1175-1177	Critical illness polyneuropathy after Bacillus cereus sepsis in acute lymphoblastic	Nishikawa T, Okamoto Y, et al.	小児科
Pediatr Transplant. 2009;13 (4):440-443	Double apheresis of peripheral blood stem cells in a single day in children mobilized by granulocyte colony-stimulating factor for transplantation.	Okamoto Y, et al.	小児科
Int J Antimicrob Agents. 2009;34 (6):589-91	Correlation between meropenem and doripenem use density and the incidence of carbapenem-resistant Pseudomonas aeruginosa.	Nishi J, et al.	小児科
Circ J 2009;73 (7):1319-1323	Multicenter and retrospective case study of warfarin and aspirin combination therapy in patients with giant coronary aneurysms caused by Kawasaki disease.	Nomura Y, et al.	小児科

Am J Med Genet A. 2009;149A(8):1722-6	Vertebral fusion in a patient with supernumerary-der(22)t(11;22) syndrome.	Toyoshima M, et al.	小児科
Bone Marrow Transplant. 2010;45(3):602-604	Unexpectedly high AUC levels in a child who received intravenous busulfan before stem cell transplantation.	Nishikawa T, Okamoto Y, et al.	小児科
Pediatr Blood Cancer 2010;55:91-94	Serum derivative of reactive oxygen metabolites (d-ROMs) in pediatric hematological patients with neutropenic fever.	Nishikawa T, Okamoto Y, et al.	小児科
Br J Haematol. 2010;148(2):285-292	Platelet vascular endothelial growth factor is a useful predictor for prognosis in Kawasaki syndrome.	Ueno K, Nomura Y, et al.	小児科
Pediatr Int. 2010;52(1):e51-3.	Large intracardiac thrombus in a child with refractory nephrotic syndrome.	Ueno K, Nagasako H, et al.	小児科
Microb Immunol 2010;54(3):160-163	Presence of multiple copies of capsulation loci in invasive Haemophilus influenzae type b (Hib) strains in Japan before introduction of the Hib conjugate vaccine.	Ueno K, Nishi J, et al.	小児科
日本小児科学会雑誌 113(9):1399-1403, 2009	集中治療を要した小児例における持続的血液濾過透析併用療法の有用性	二宮由美子 野村裕一 他	小児科
日本小児科学会雑誌 113(9):1436-1439, 2009	小児科臨床実習における入院患児に付き添っている母親による学生評価	野村裕一 他	小児科
日本小児科学会雑誌 113(12):1861-1866, 2009	卒後臨床研修における小児科1年目研修は小児医療への興味を高める。	野村裕一 他	小児科
外科治療	進行食道癌の術前補助療法はリンパ節微小転移の制御に有効か?	夏越 祥次	第一外科
Mamma	当施設における術式の工夫 整容性を考慮した乳房温存術	喜島 祐子	第一外科
胃と腸	食道胃接合部腺癌の特徴-Barrett食道癌, 胃上部癌との比較- 外科の立場から	石神 純也	第一外科
日本臨床外科学会雑誌	原発性硬化性胆管炎に並存した早期胆嚢管癌の1例	又木 雄弘	第一外科
癌と化学療法	Upper G. I. Cancer食道・胃癌 III. 食道癌の sentinel node navigation surgery の現状と展望	夏越祥次	第一外科
日本臨床外科学会雑誌	針生検後のneedle tract seedingと思われる乳房温存術後真皮内再発の1例	溝口 資夫	第一外科
日本臨床外科学会雑誌	膵中央切除を施行した膵の脂肪置換合併内分泌腫瘍の1例	又木 雄弘	第一外科
消化器外科	食道狭窄・閉塞に対するIVR	的場 康徳	第一外科
癌と化学療法	膵癌におけるFDG-PETの有用性の検討	又木 雄弘	第一外科
臨床と研究	食物通過障害	松本 正隆	第一外科
Cancer Immunol Immunother	Prognostic value of CD208-positive cell infiltration in gastric cancer	Sumiya Ishigami	第一外科
Reprinted from Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery	From Uniformed Treatment to Individualized Treatment for Superficial Esophageal Cancer -What Is Potentially a New Approach?	Shoji Natsugoe	第一外科
cancers	Number of Axillary Lymph Node Metastases Determined by Preoperative Ultrasound is Related to Related to Prognosis in Patients with Breast Cancer	Yuko Kijima	第一外科
Langenbecks Arch Surg	Clinical course and outcome after esophagectomy with three-field lymphadenectomy in esophageal cancer	Shoji Natsugoe	第一外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg.	Left ventricular reconstruction with or without mitral annuloplasty.	Ueno T	心臓血管外科
J Cardiol	Abnormal Tei index predicts poor left ventricular mass regression and survival after AVR in aortic stenosis patients.	Tao K	心臓血管外科
臨床外科	セプラフィルム使用後に発症した癒着性イレウス	北菌 巖	消化器外科
臨床外科	冠動脈血行再建後の消化管悪性腫瘍手術症例の検	北菌 巖	消化器外科

Epilepsy Research 90: 121-131, 2010	Gradient magnetic-field topography reflecting cortical activities of neocortical epilepsy spikes.	Shirozu H. 他	脳神経外科
J Craniomaxillofac Surg 37: 477-480, 2009	Cranial surgery without head shaving	Tokimura H. 他	脳神経外科
脳神経外科ジャーナル 18: 347-355, 2009	閉経前女性の下垂体腺腫の治療	有田和徳 他	脳神経外科
Neurologia Medico Chirurgica 50: 668-674, 2010	moyamoya disease associated with Grave's disease in a mother and daughter -Two case reports-	Tokimura H 他	脳神経外科
Neurologia Medico Chirurgica 50: 588-591, 2010	syncytiotrophoblastic giant cells arising in the corpus callosum -case report-	Yonezawa H 他	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica 49: 124-127, 2009	Xanthogranuloma in the Suprasellar Region -Case Report-	Sei Sugata 他	脳神経外科
Neurologia medico-chirurgica 49: 269-272, 2009	Transethmoidal Meningoencephalocele Involving the Olfactory Bulb With Enlarged Foramina of the Lamina Cribrosa	Mika Habu 他	脳神経外科
Exp Neurol 219: 104-111, 2009	Neuronal differentiation of neural precursor cells is promoted by the methyl-CpG-binding protein MeCP2.	Tsujimura K	整形外科
Neurosurgery 64(6): E1198-E1199, 2009	Transient focal spinal cord hyperemia after resection of spinal meningioma: case report.	Ijiri K	整形外科
Neurosurgery 64(6): E1200-E1201, 2009	Huge intradural ossification caused by a mature spinal teratoma: case report.	Ijiri K	整形外科
J Neurosci Res 87(13): 2908-2915, 2009	Disruption of the midkine gene (Mdk) delays degeneration and regeneration in injured peripheral nerve.	Sakakima H	整形外科
Spine 34(4): 323-327, 2009	Stem cell factor prevents neuronal cell apoptosis after acute spinal cord injury.	Yamasaki K	整形外科
Spine 34(12): 1395-1398, 2009	Diagnostic validity of space available for the spinal cord at C1 level for cervical myelopathy in patients with rheumatoid	Oda T	整形外科
Spine 34(24): E879-E881, 2009	Evaluation of occipitocervical subluxation in rheumatoid arthritis patients, using coronal-view reconstructive computed tomography.	Nagayoshi R	整形外科
Spinal Cord 47(11): 829-831, 2009	Traumatic spinal-cord herniation associated with pseudomeningocele after lower-thoracic nerve-root avulsion.	Ijiri K	整形外科
Int J Dev Neurosci 27(7): 685-690, 2009	Retinal astrocyte differentiation mediated by leukemia inhibitory factor in cooperation with bone morphogenetic protein 2.	Fukushima M	整形外科
Pediatr Neurosurg 45(1): 73-77, 2009	L2-L3 flexion-distraction injury treated by posterior fusion using ultra-high molecular weight polyethylene tape in a 7-year-old boy.	Tofuku K	整形外科
Neurol Med Chir 49(10): 474-477, 2009	Ventrally located cervical intramedullary cavernous angioma: selection of posterior and anterior approaches: cases report.	Ijiri K	整形外科
Case Report Med 2009: 727041, 2009	Traumatic lumbosacral dislocation treated with posterior lumbar interbody fusion using intersomatic cages.	Tofuku K	整形外科
Proc Natl Acad Sci USA 106(4): 1181-1186, 2009	Aging-related loss of the chromatin protein HMGB2 in articular cartilage is linked to reduced cellularity and osteoarthritis.	Taniguchi N	整形外科
Proc Natl Acad Sci USA 106(39): 16817-16822, 2009	Chromatin protein HMGB2 regulates articular cartilage surface maintenance via beta-catenin pathways.	Taniguchi N	整形外科
Hum Mol Genet 19(5): 848-860, 2010	A cis-regulatory site downregulates PTHLH in translocation t(8;12)(q13;p11.2) and leads to Brachydactyly Type E.	Maass PG	整形外科
Arthritis Rheum 60(1): 63-72, 2009	Activation of synoviolin promoter in rheumatoid synovial cells by a novel transcription complex of interleukin enhancer binding factor 3 and GA binding protein α .	Izumi T	整形外科

Mol Cell Biol 29(1):172-186, 2009	Chromatin immunoprecipitation on microarray analysis of Smad2/3 binding sites reveals roles of ETS1 and TFAP2A in transforming growth factor β signaling.	Koinuma D	整形外科
J Biol Chem 284(1):245-253, 2009	Role of ras signaling in the induction of snail by transforming growth factor- β .	Horiguchi K	整形外科
J Biol Chem 284(10): 6109-6115, 2009	Pln1 down-regulates transforming growth factor- β (TGF- β) signaling by inducing degradation of Smad proteins.	Nakano A	整形外科
J Biol Chem 285(11): 8395-8407, 2010	GADD45beta enhances Col10a1 transcription via the MTK1/MKK3/6/p38 axis and activation of C/EBPbeta-TAD4 in terminally differentiating	Tsuchimochi K	整形外科
Bone 44 : 53-60, 2009	Arkadia represses the expression of myoblast differentiation markers through degradation of Ski and the Ski-bound Smad complex in C2C12 myoblasts.	Yuzawa H	整形外科
Bone 45 : 1125-1132, 2009	Mechanical stress induces Interleukin-11 expression to stimulate osteoblast differentiation.	Kido S	整形外科
Cancer Sci 100(11): 2133-2142, 2009	Promoter-wide analysis of Smad4 binding sites in human epithelial cells.	Koinuma D	整形外科
BMC Dev Biol 9 : 47, 2009	Arginine methyltransferase CARM1/PRMT4 regulates endochondral ossification.	Ito T	整形外科
J Bone Miner Metab 27 : 36-45, 2009	Expression of osterix inhibits bone morphogenetic protein-induced chondrogenic differentiation of mesenchymal progenitor	Tominaga H	整形外科
J Biol Chem 284(5): 3334-3344, 2009	SKI and MEL1 cooperate to inhibit transforming growth factor- β signal in	Takahata M	整形外科
Br J Cancer 100(12): 1957-1965, 2009	Inhibition of Notch pathway prevents osteosarcoma growth by cell cycle regulation.	Tanaka M	整形外科
Br J Cancer 101(12): 2030-2037, 2009	Tumour formation by single fibroblast growth factor receptor 3-positive rhabdomyosarcoma-initiating cells.	Hirotsu M	整形外科
Cancer Sci 100(11):2085-2092, 2009	Functional in vivo optical imaging of tumor angiogenesis, growth, and metastasis prevented by administration of anti-human VEGF antibody in xenograft model of human fibrosarcoma HT1080 cells.	Hanyu A	整形外科
Clin Exp Dermatol 34(8):E740-E743, 2009	Multiple intravascular papillary endothelial hyperplasia affecting skin and bone.	Higashi Y	整形外科
Oncol Rep 22(5):1045- 1050, 2009	Hyperbaric oxygen as a chemotherapy adjuvant in the treatment of osteosarcoma.	Kawasoe Y	整形外科
Int J Clin Oncol 14(2):159-162, 2009	An atypical extrahepatic metastasis of the distal phalanx from hepatocellular carcinoma.	Otsuji M	整形外科
J Biomech 42(15): 2611-2615, 2009	Stress deprivation from the patellar tendon induces apoptosis of fibroblasts in vivo with activation of mitogen-activated protein	Kawabata H	整形外科
Int J Antimicrob Agents 34(6):589-591, 2009	Correlation between meropenem and doripenem use density and the incidence of carbapenem-resistant Pseudomonas aeruginosa.	Shigemi A	整形外科
整形外科と災害外科 58(1):7-9, 2009	リネゾリドが有効であったMRSA脊椎感染症の治療経験	福永絵里奈	整形外科
整形外科と災害外科 58(1):55-57, 2009	超高齢大腿骨近位部骨折非手術患者の受傷後生命予後	本木下亮	整形外科
整形外科と災害外科 58(1):119-123, 2009	低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病におけるO脚変形の治療経験	中村雅洋	整形外科
整形外科と災害外科 58(1):146-148, 2009	外科的治療を行った下肢転移性骨腫瘍症例の検討	川添泰臣	整形外科
整形外科と災害外科 58(3):342-345, 2009	外側型腰椎椎間板ヘルニアに対する骨形成的偏側椎弓切除術の治療成績(術後6年以上経過例)	富永博之	整形外科
整形外科と災害外科 58(3):369-372, 2009	連通多孔体ハイドロキシアパタイトを用いた人工股関節置換術の初期固定	永野 聡	
整形外科と災害外科 58(3):373-376, 2009	90歳以上の腰部脊柱管狭窄症患者に対する手術経験	富村奈津子	整形外科
整形外科と災害外科 58(3):387-389, 2009	骨肉腫肺転移に対してカフェイン併用化学療法が著効した1例	有島善也	整形外科

整形外科と災害外科 58 (3) : 415-418, 2009	進行性麻痺により確定診断前に手術を施行した脊椎腫瘍の検討—生検をかねたpalliative surgeryの意義と問題点—	山元拓哉	整形外科
整形外科と災害外科 58 (3) : 469-472, 2009	化学療法を行った滑膜肉腫の治療成績	善明美千久	
整形外科と災害外科 58 (3) : 447-450, 2009	Infliximab・MTX併用RA患者における後頭頸椎病変の経過	河村一郎	整形外科
整形外科と災害外科 58 (3) : 478-481, 2009	頸部痛を主訴に整形外科外来を受診した後咽頭膿瘍の1例	島田隆太郎	整形外科
整形外科と災害外科 58 (3) : 491-495, 2009	術後ドレッシング材の有用性に関する前向き研究	川上広高	整形外科
整形外科と災害外科 58 (3) : 496-498, 2009	手術時手洗いにウォーターレス法を導入して	内山田桜	整形外科
整形外科と災害外科 58 (3) : 503-506, 2009	ペルテス病に対する外転位固定装具治療の長期成績	肥後 勝	整形外科
整形外科と災害外科 58 (4) : 533-536, 2009	先天性内反足に対するPonseti法の短期成績	吉野伸司	整形外科
整形外科と災害外科 58 (4) : 623-626, 2009	骨粗鬆症性椎体骨折後偽関節に対するCTガイド下椎体形成術の経験	山王朋佳	整形外科
整形外科と災害外科 58 (4) : 627-629, 2009	鎖骨遠位端骨折に対する肩鎖関節プレート固定の治療経験	矢崎雄一郎	整形外科
整形外科と災害外科 58 (4) : 682-687, 2009	棘突起正中縦割進入MED法の短期成績	楊 昌樹	整形外科
西日本脊椎研究会誌 35 (1) : 76, 2009	MRIにおける腰椎椎間関節の信号変化の検討	竹之内剛	整形外科
西日本脊椎研究会誌 35 (1) : 90, 2009	CTによる冠状断MPR像とMRIを用いたRA上位頸椎病変に対する評価	永吉隆作	整形外科
西日本脊椎研究会誌 35 (1) : 101, 2009	特発性側弯症の胸椎固定術後における腰椎カーブの検討—Lenke分類を用いた固定範囲選択の有用性について—	山元拓哉	整形外科
西日本脊椎研究会誌 35 (2) : 113-116, 2009	当科における脊髄硬膜内髄外腫瘍の疫学	山王朋佳	整形外科
西日本脊椎研究会誌 35 (2) : 133-135, 2009	硬膜内髄外腫瘍摘出後の癒着性くも膜炎の評価—CISS画像を用いて—	河村一郎	整形外科
西日本脊椎研究会誌 35 (2) : 200-202, 2009	比較的稀な脊髄軟膜下脂肪腫の1例	有馬正彦	整形外科
西日本脊椎研究会誌 35 (2) : 233-237, 2009	脊髄硬膜内悪性腫瘍の4例	善明美千久	整形外科
西日本脊椎研究会誌 35 (2) : 238-240, 2009	坐骨神経に発生したneurolymphomatosisの1例	山下芳隆	整形外科
整形・災害外科 52 (1) : 5-10, 2009	感染性脊椎炎における骨破壊	佐々木裕美	整形外科
整形・災害外科 52 (1) : 35-42, 2009	化膿性脊椎炎に対する後方・前方一期的同時手術	田邊 史	整形外科
整形・災害外科 52 (2) : 129-138, 2009	外傷性頸部症候群における発生の疫学と最新の統計	米 和徳	整形外科
MB Orthop. 22 (2) : 27- 30, 2009	外傷性頸部症候群の保存療法・薬物療法	米 和徳	整形外科
脊椎・脊髄ジャーナル 22 (6) : 739-744, 2009	頸椎後縦靭帯骨化症手術成績不良例の検討	米 和徳	整形外科
Clinical Calcium 19 : 11415-11420, 2009	OPLLの疫学・病因について	松永俊二	整形外科
整形外科 60 (7) : 656, 2009	Vocabulary C/EBP β	富永博之	整形外科
整形外科 60 (11) : 1200, 2009	Vocabulary GADD45 β	井尻幸成	整形外科
Progress In Medicine 29 (9) : 2297-2301, 2009	ビスフォスフォネート (BP) 製剤の服薬コンプライアンスをいかに向上させるか	恒吉康弘	整形外科
関節外科 28 (3) : 113- 115, 2009	最新学際情報 高気圧酸素療法と抗癌剤治療	川添泰臣	整形外科
関節外科 28 (4) : 98-99, 2009	最新学際情報 変形性関節症とクロマチン蛋白	谷口 昇	整形外科

関節外科 28(8) : 7-8, 2009	introduction 診断は簡便に, 治療は多様性に	小宮節郎	整形外科
関節外科 28(8) : 10-14, 2009	上肢正常解剖のエコー像	梶 博則	整形外科
関節外科 28(8) : 74-78, 2009	脊椎・脊髄疾患におけるエコーの有用性	井尻幸成	整形外科
関節外科 28(8) : 80-86, 2009	軟部腫瘍のエコー診断	善明美千久	整形外科
Medical Bio 6(3) : 54-57, 2009	がんにおける血管・リンパ管の形態変化の蛍光イメージング	羽生亜紀	整形外科
Cancer Frontier 11 : 52-57, 2009	イメージングによる転移過程の可視化	今村健志	整形外科
血管医学 10(4) : 305-311, 2009	腫瘍血管のバイオイメージング 蛍光イメージングによる腫瘍血管解析の可能性	井上博文	整形外科
日本関節病学会誌 28(1) : 9-14, 2009	RA生物学的製剤使用例における周術期管理	恒吉康弘	整形外科
日本関節病学会誌 28(3) : 434, 2009	三次元骨欠損モデルを用いて術前計画を行った高度骨欠損を伴う人工股関節再置換術の2例	石堂康弘	整形外科
日本関節病学会誌 28(3) : 441, 2009	RA人工肘関節置換術の成績	有島善也	整形外科
日本関節病学会誌 28(3) : 447, 2009	当院における人工股関節術後感染に対する治療	神園純一	整形外科
日本関節病学会誌 28(3) : 449, 2009	人工膝関節置換術感染をきたした潜在性血友病Aの1例	砂原伸彦	整形外科
日本関節病学会誌 28(4) : 553-558, 2009	人工膝関節周辺骨折の検討-骨粗鬆症を中心に-	川畑英之	整形外科
日本クリニカルパス学会誌 11(4) : 442, 2009	大腿骨近位部骨折手術症例の術後1年のADL予後病院形態別の比較	石堂康弘	整形外科
ICUとCCU 33(2) : 153-157, 2009	熱傷部位の市中獲得型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症によるToxic shock syndromeの1症例	川村英樹	整形外科
炎症と免疫 17(6) : 702-706, 2009	細胞相互作用のin vivoイメージング	今村健志	整形外科
癌と化学療法 23(6) : 441-447	- 難治性皮膚悪性腫瘍の治療戦略 - 皮膚悪性リンパ腫 ATLに対する造血幹細胞移植	米倉健太郎	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌 119(13) : 2663-2667	皮膚外科 手術を躊躇する症例を前にして「巨大」な腫瘍へのアプローチ Never Hesitate, Be Cool!	松下茂人	皮膚科
Skin Cancer 24(3) : 510-515	皮膚悪性リンパ腫に対する化学療法と造血幹細胞移植の実験	米倉健太郎	皮膚科
Cancer. Lett. 276(2) : 189-195	RNA interference targeting the CD147 induces apoptosis of multi-drug resistant cancer cells related to XIAP depletion.	Kanekura T, et al	皮膚科
Clin. Exp. Dermatol. 34(3) : 448-449	Fatal muscle haemorrhage attributable to heparin administration in a patient with	Higashi Y, et al	皮膚科
PloS. One. 4(8) : e6517	Abnormally high levels of virus-infected IFN-gamma+ CCR4+ CD4+ CD25+ T cells in a retrovirus-associated neuroinflammatory	Azakami K, et al	皮膚科
Dermatology. 219(3) : 274-278	Epidermodyplasia-verruciformis-like eruption associated with gamma-papillomavirus infection in a patient with adult T-cell	Kawai K, et al	皮膚科
Int. J. Dermatol. 48(10) : 1113-1115	Lipodystrophia centrifugal abdominalis infantilis manifesting as recurrent skin ulcerations.	Higashi Y, et al	皮膚科
J. Dermatol. 36(10) : 557-558	Extramammary Paget's disease with prominent signet-ring cells.	Uchimiya H, et al	皮膚科
Clin. Exp. Dermatol. 34(7) : e268-e269	Tungsten granuloma attributable to a piece of lawn-mower blade.	Saruwatari H, et al	皮膚科
Blood. 114(15) : 3208-3215	Severe loss of invariant NKT cells exhibiting anti-HTLV-1 activity in patients with HTLV-1-associated disorders.	Azakami K, et al	皮膚科
Am. J. Hum. Genet. 85(5) : 569-580	Use of a modified alpha-N-acetylgalactosaminidase in the development of enzyme replacement therapy for Fabry disease.	Kanekura T, et al	皮膚科

Clin. Exp. Dermatol. 34 (8) : e617-e619	Multifocal haemangioma with extracutaneous involvement associated with	Uchida Y, et al	皮膚科
Clin. Exp. Dermatol. 34 (8) : e740-e743	Multiple intravascular papillary endothelial hyperplasia affecting skin and bone.	Higashi Y, et al	皮膚科
Clin. Exp. Dermatol. 34 (8) : e748-e750	Extensive multiple piloleiomyoma in the submental region treated successfully by surgery and reconstruction with a submental	Matsushita S, et al	皮膚科
J. Dermatol. Sci. 57 (1) : 37-43	Prognosis of 100 Japanese patients with mycosis fungoides and Sézary syndrome.	Kawai K, et al	皮膚科
J. Invest. Dermatol. 130 (1) : 316-318	Cutaneous-type adult T-cell leukemia/lymphoma does not primarily show deletion of NAV3	Kawai K, et al	皮膚科
J. Dermatol. 37 (2) : 185-187	Cutaneous Mycobacterium intracellulare infection in a bone marrow transplantation	Saruwatari H, et al	皮膚科
J. Dermatol. Sci. 57 (3) : 149-154	CD147/basigin promotes progression of malignant melanoma and other cancers.	Kanekura T, et al	皮膚科
Int. J. Cancer. 126 (6) : 1521-1528	Cutaneous type adult T-cell leukemia/lymphoma is a characteristic subtype and includes erythema/papule and nodule/tumor subgroups.	Yonekura K, et al	皮膚科
西日本皮膚科 71 (2) : 128-130	超音波検査用ゲルによる接触皮膚炎の1例	玉井真理子 他	皮膚科
西日本皮膚科 71 (3) : 278-280	男性乳癌の1例	馬場千晶 他	皮膚科
Visual Dermatology 8 (11) : 1185-1187	【角化する皮膚病 難しい病気をわかりやすく理解する】症例集 KID症候群	内宮礼嗣 他	皮膚科
西日本皮膚科 71 (5) : 471-473	ソバによる職業性接触皮膚炎の1例	川上延代 他	皮膚科
西日本皮膚科 71 (5) : 487-489	Nerve Sheath Myxomaの1例	武田浩一郎 他	皮膚科
西日本皮膚科 71 (5) : 494-496	髄膜脳炎を合併した帯状疱疹の1例	吉福明日香 他	皮膚科
西日本皮膚科 71 (5) : 503-505	著明な表皮壊死を呈したSorafenibによる限局性手足皮膚反応の1例	馬場直子 他	皮膚科
皮膚科の臨床 51 (12) : 1792-1793	皮膚転移を契機に診断された悪性胸膜中皮腫の1例	岩田政宏 他	皮膚科
西日本皮膚科 71 (6) : 589-591	一期的に尿管摘除、臍形成術を行った尿管膿瘍の1例	指宿敦子 他	皮膚科
西日本皮膚科 72 (1) : 3-5	抗菌剤不使用のデスクマットによる接触皮膚炎の1例	指宿敦子 他	皮膚科
西日本皮膚科 72 (1) : 36-39	インドメタシン外用が奏功した日光角化症の1例	久保秀通 他	皮膚科
西日本皮膚科 72 (1) : 40-42	膣トリコモナス症を併発した陰部外硬性下疳の1例	多田浩一 他	皮膚科
Visual Dermatology 9 (3) : 228-229	指状疣贅かミルメシアか？-指状疣贅様臨床像を呈した特異なミルメシア	久保秀通 他	皮膚科
International Journal of Oncology 34 : 1593-1602. 2009	CpG hypermethylation of collagen type I a 2 contributes to proliferation and migration activity of human bladder cancer	Mori K, Enokida H, et al.	泌尿器科
International Journal of Cancer 125 : 345-	Identification of novel microRNA targets based on microRNA signatures in bladder	Ichimi T, Enokida H, et al.	泌尿器科
Ophthalmology. 2009 May;116 (5) : 921-6.	Vitreous mediators after intravitreal bevacizumab or triamcinolone acetonide in eyes with proliferative diabetic retinopathy.	Arimura N et al	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2009 Jul;247 (7) : 907-12.	Drug reflux during posterior subtenon infusion of triamcinolone acetonide in diffuse diabetic macular edema not only brings insufficient reduction but also causes elevation of intraocular pressure.	Shimura M, Yasuda K, Nakazawa T, Shiono T, Sakamoto T, et al	眼科
Ultrasound Med Biol. 2009 Aug 19	Sonothrombolysis for Intraocular Fibrin Formation in an Animal Model.	Yamashita T et al	眼科
J Glaucoma. 2009 Aug 5.	Steroid-induced Glaucoma in Children With Acute Lymphoblastic Leukemia: A Possible	Yamashita T et al	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2009 Jul 29.	Panretinal photocoagulation induces pro-inflammatory cytokines and macular thickening in high-risk proliferative diabetic retinopathy.	Shimura M, Yasuda K, Nakazawa T, Abe T, Shiono T, Iida T, Sakamoto T, et al	眼科

Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2009 Oct;247(10):1417-25.	Anterior ischemic optic neuropathy associated with Vogt-Koyanagi-Harada disease.	Nakao K et al	眼科
Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2009 Sep;247(9):1153-63.	Visualizing vitreous in vitrectomy by triamcinolone.	Sakamoto T et al	眼科
日本眼科学会雑誌 113(4):526-531. 2009.	「眼科医トレーニング」女性医師、病欠者の対応に関するアンケート調査報告	木下 茂, 根木 昭, 井上幸次, 黒坂大次郎, 坂本泰二	眼科
Acta Ophthalmol. 2010 Mar 12.	Predictable signs of benign course of polypoidal choroidal vasculopathy: based upon the long-term observation of non-treated	Okubo A et al	眼科
Retina. 2010 Feb 23.	VITRECTOMY FOR EXUDATIVE AGE-RELATED MACULAR DEGENERATION WITH VITREOUS HEMORRHAGE.	Sakamoto T et al	眼科
Circ J. 2010 Mar 25;74(4):779-85.	Multicenter Study for Aggressive Lipid-lowering Strategy by HMG-CoA Reductase Inhibitors Investigators. Standard-dose statin therapy provides incremental clinical benefits in normocholesterolemic diabetic	Kojima S, Sakamoto T et al	眼科
MAGNETOM Flash. 1; 68-70. 2009.	Trevor's disease	Y Fukukura	放射線科
Jpn J Radiol. 27;180-184. 2009.	Successful portal-systemic shunt occlusion of a direct shunt between the inferior mesenteric vein and inferior vena cava with balloon-occluded retrograde transvenous obliteration following recanalization after placing a covered stent in the portal and	S Hayashi	放射線科
Abdominal Imaging. Jul 9; 2009.	Pancreatic adenocarcinoma: a comparison of automatic bolus tracking and empirical scan delay.	Y Fukukura	放射線科
J Jpn Ther Radiol Oncol. 21(2):87-90.	A Case of a recurrent FNH-like lesion treated by radiation therapy.	M Nakajo	放射線科
I VR誌 Metallic Stentの現況と進歩 X I. 24supplement; 10-11. 2009.	当院における腕頭鎖骨下動脈領域における stentgraft挿入術の経験について	馬場康貴	放射線科
I VR誌 Metallic Stentの現況と進歩 X I I. 24supplement; 6-7.	ステントグラフト内挿術とコイル塞栓術にて治療した分枝動脈瘤の2例	馬場康貴	放射線科
Clinical Nuclear Medicine. 34(5);327-329. 2009.	FDG PET/CT Findings of Mesenchymal Hamartoma of the Liver in an Adult.	M Nakajo	放射線科
Nucl Med Commun. 30(6);431-439. 2009.	Role of gastric distention with additional water in differentiating locally advanced gastric carcinomas from physiological uptake in the stomach on 18F-fluoro-2-dexy-D-glucose PET	M Nakajo	放射線科
J Magn Reson Imaging. 31(3);607-616. 2010.	Comparison of ferucarbotran-enhanced fluid-attenuated inversion-recovery-echo-planar, T2-weighted turbo spin-echo, T2*-weighted gradient-echo, and diffusion-weighted echo-planar imaging for detection of malignant	Y Fukukura	放射線科
Histopathology	Difference in Subcellular localization of maspin expression in ovarian mucinous	Tsuji T	産婦人科
臨床婦人科産科	PCOSと女性のQOL	沖 利通	産婦人科
産婦人科治療	悪性腫瘍：子宮頸部腺系病変：境界病変取扱いの現状と課題	辻 隆広	産婦人科
日本産科婦人科学会雑誌	婦人科疾患の診断・治療・管理 閉経後脂質異常	岩元 一朗	産婦人科
産婦人科の実際	【卵管に関する最新知識を学ぶ】卵管炎・PIDの診断と治療	山崎 英樹	産婦人科
産婦人科治療	【中高年女性のヘルスケア 最近の話題】更年期の不定愁訴とその対応	岩元 一朗	産婦人科
臨床婦人科産科	【HRTの新ガイドラインを読み解く】【HRTの適応】メタボリックシンドローム	岩元 一朗	産婦人科
小児外科	【小児の診察を極める】婦人科（思春期）診察	吉富 奈央	産婦人科
産婦人科治療	多嚢胞性卵巣症候群の新しい診断基準	沖 利通	産婦人科

Journal of Anesthesia	Cibenzoline attenuates systolic anterior motion of the mitral valve after mitral	Takeshi Omae	麻酔科
ICCとCCU	【侵襲性のより少ない人工呼吸法をめざして】急性肺傷害に対する非侵襲的陽圧換気法 (NPPV)	菊池忠	麻酔科 (救急部)
Anesthesia & Analgesia	The effects of the phosphodiesterase inhibitor olprinone on the global cerebral	Naoko Okayama	麻酔科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2009	Localization of acyl ghrelin- and des-acyl ghrelin-immunoreactive cells in the rat stomach and their responses to intragastric	Mizutani M, et al	心身医療科
Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 2009	New method of manometric measurement of gastroduodenal motility in conscious mice: effects of ghrelin and Y2 depletion.	Tanaka R, et al	心身医療科
Pharmacol Rev. 2009 Dec;61(4):430-81.	Ghrelin gene products and the regulation of food intake and gut motility.	Chen CY, et al	心身医療科
Clin Nutr. 2010 Apr;29(2):227-34. Epub 2009 Nov 27.	Appetite and gastrointestinal motility: role of ghrelin-family peptides.	Perboni S, et al	心身医療科
2009 Dec 18;390(3):887-91. Epub 2009 Oct 20.	Comparison of the anorexigenic activity of CRF family peptides.	Tanaka C, et al	心身医療科
Prostaglandins Other Lipid Mediat. 2009 Dec;90(3-4):81-4. Epub 2009 Oct 1.	Complement C5a stimulates food intake via a prostaglandin D(2)- and neuropeptide Y-dependent mechanism in mice.	Ohinata K, et al	心身医療科
Biochim Biophys Acta. 2009 Nov;1792(11):1087-93. Epub 2009 Sep 8.	Failure of the feeding response to fasting in carnitine-deficient juvenile visceral steatosis (JVS) mice: involvement of defective acyl-ghrelin secretion and enhanced corticotropin-releasing factor signaling in the hypothalamus	Sakoguchi T, et al	心身医療科
J Perinatol	Radiographic findings of diaphragmatic hernia and hypoplastic lung.	Shimono R	小児外科
J Pediatr Surg	Nutritional effects of the serial transverse enteroplasty procedure in experimental short bowel syndrome.	Kaji T	小児外科
J Surg Res	Temporal changes in the intestinal growth promoting effects of glucagon-like peptide 2 following intestinal resection.	Kaji T	小児外科
Biological Sciences in Space, Vol. 23 No. 2, 43-53. 2009	Bio-assessment of risk in long-term manned space exploration - cell death factors in space radiation and/or microgravity: a review	Majima HJ	顎顔面放射線学
Anesth Analg. 2009; 108: 1358-1359.	The EndoFlex tube enhances navigability through the nasal cavity during nasotracheal intubation.	梶山加綱	歯科麻酔科
Pediatric Anesthesia, 2009; 19: 640-641	Lengths of preformed pediatric orotracheal tubes for children with cleft palate	梶山加綱	歯科麻酔科
Acta Anaesthesiologica Scandinavica, 2009; 53: 960-963	Combining the EndoFlex tube with fiberoptic bronchoscopy in difficult intubation	梶山加綱	歯科麻酔科
鹿児島県歯科医師会報、2009; March: 4-5	高齢者における1/20万アドレナリン添加リドカイン投与後の経時的循環動態変動	梶山加綱	歯科麻酔科
鹿児島県歯科医師会、医療管理委員会だより、2009; 1月, 第2号	在宅高齢者歯科治療時の全身管理と救急処置	梶山加綱	歯科麻酔科
麻酔、2009; 58: 777-781	顎間固定用口腔内留置型吸引カテーテル	梶山加綱	歯科麻酔科
日本歯科麻酔学会雑誌、2009; 37: 187-188	ラリンジアルマスクと気管支ファイバースコープ併用法により挿管しえたGoldenhar症候群の1例	梶山加綱	歯科麻酔科
鹿児島大学歯学部紀要、2009; 29: 6-7	鹿児島大学歯学部開設30周年を迎えて	梶山加綱	歯科麻酔科
歯界展望 2009; 114: 979-985	全身管理からみたインプラント除去術	梶山加綱	歯科麻酔科
大阪大学歯学部同窓会報、2009; 105, 44	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科	梶山加綱	歯科麻酔科
Journal of Computer Assisted Tomography, 34: 233-241. 2010.	Clinical Significance of Magnetization Transfer Contrast Imaging for Edematous Changes in Masticatory Muscle	Nagayama K.	矯正歯科

Orthodontic Waves, 68: 158-165, 2009.	Longitudinal craniofacial changes in Japanese adults with untreated maxillary and mandibular protrusions	Miyawaki S.	矯正歯科
Journal of Craniomandibular Practice	A Cross-sectional Study of Developing Resting Masseter Activity in Different Angle Classifications in Adolescence	齊藤一誠	小児歯科
小児耳鼻咽喉科 (小児耳)	上気道流体シミュレーションからみた通気状態が顎顔面形態に及ぼす歯科的影響	岩崎智憲	小児歯科
小児歯誌	逆生理伏した上顎右側中切歯の鼻側に埋伏過剰歯を有する症例の歯列咬合管理	岩崎智憲	小児歯科
Am J Orthod Dentofacial Orthop	Oropharyngeal Airway in Children with Class III Malocclusion Evaluated by Cone-beam Computed Tomography	岩崎智憲	小児歯科
J Clin Pediatr Dent	Overlap of the primary dentition in children. The Journal of clinical pediatric dentistry	齊藤一誠	小児歯科
Forensic Sci Int	Relationship of nasal and skeletal landmarks in lateral cephalograms of preschool children	稲田絵美	小児歯科
小児歯誌	新しい支援モデルを用いて対応した小児の顎関節症の実態調査	山崎要一	小児歯科
Journal of Craniomandibular Practice	Mandibular Open-Close Motion in Children with Anterior Crossbite Occlusion	徳富順子	小児歯科
Journal of Craniomandibular Practice	aw Motion during Gum-Chewing in Children with Primary Dentition	窪田直子	小児歯科
小児歯誌	幼児期の顔面軟組織の三次元形態解析 1. 直行座標系の検討	深水篤	小児歯科
小児歯誌	幼児期の顔面軟組織の三次元形態解析 2. 幅径と高径について	深水篤	小児歯科
J Clin Periodontol. 2010. 37. 374-381	Regenerative effect of basic fibroblast growth factor on periodontal healing in two-wall intrabony defects in dogs	Shirakata Y 他	歯周病科
Oral Diseases	The association of periodontal disease with oral malodour in a Japanese population.	M Machigashira 他	歯周病科
J Periodontol, 2009, 80 (9), 1511-1517	Degradation of Vascular Endothelial Thrombomodulin by Arginine- and Lysine-Specific Cysteine Proteases From Porphyromonas gingivalis	Takashi Matsuyama 他	歯周病科
Biochem Biophys Res Commun 2009, 389, 90-94	MK615 attenuates Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide-induced pro-inflammatory cytokine release via MAPK inactivation in murine macrophage-like RAW264.7 cells.	Takashi Matsuyama 他	歯周病科
Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology and Endodontology 2009, 109, 225-231	Effectable application of vascular endothelial growth factor to critical sized rat calvaria defects.	Takashi Matsuyama 他	歯周病科
Dental Material Journal ; 28 (4) : 461-470, 2009	Effect of surface roughness on initial responses of osteoblast like cells on two types of zirconia.	M. Miyamoto 他	歯周病科
Bioceramics 22 Vol. 22, 337-340, 2009	Biocompatibility of zirconia with osteoblast-like cells.	M Machigashira 他	歯周科
Oral Microbiol Immunol. 24 (4), 292-298, 2009	Human gingival fibroblasts release high-mobility group box-1 protein through active and passive pathways.	M Machigashira 他	歯周病科
J Periodontal Res 44 (3) 395-401 2009	Cyclooxygenase-2-derived prostaglandin E2 is involved in vascular endothelial growth factor production in interleukin-1 alpha-stimulated human periodontal ligament cells	K Noguchi 他	歯周病科
Dental Materials Journal	Effect of fiber-premixed indirect resin composite substructure on fracture resistance of MOD composite inlays adhered with two different adhesive resin cements.	Hiroyuki M, et al	冠・ブリッジ科
鹿児島県歯科医師会報	接着ブリッジの長期臨床例から考える	田中卓男	咬合機能補綴学 (冠・ブリッジ科)

日本口腔ケア学会雑誌	(総説) 口腔ケアに必要な口腔カンジダ症の基礎知識-診断・治療と口腔ケアによる口腔カンジダ症	上川善昭	口腔顎顔面センター (口腔外科)
日本歯科薬物療法学会雑誌	アンギオテンシンII受容体拮抗薬が誘因と推察された舌・口底部の血管性浮腫の1例	坂元亮一, 上川善昭, 杉原一正	口腔顎顔面センター (口腔外科)
International Journal of Oral & Maxillofacial Surgery	Small cell carcinoma of the buccal region.	Kazuhide Nishihara	口腔顎顔面外科
Journal of Oral & Maxillofacial Surgery	Postoperative nasal forms after presurgical nasolabial molding followed by medial-upward advancement of nasolabial components with vestibular expansion for children with unilateral complete cleft lip and palate.	Norifumi Nakamura	口腔顎顔面外科
Journal of Oral & Maxillofacial Surgery	Surgical procedure for secondary correction of unilateral cleft lip nose deformity - Clinical and 3D observation of pre- and postoperative nasal forms.	Norifumi Nakamura	口腔顎顔面外科
Biochemical and Biophysical Research Communications (BBRC)	Comparison of the anorexigenic activity of CRF family peptides.	Chie Tanaka	口腔顎顔面外科
Oral Science International	Effects of bulb type palatal lift prosthesis therapy on nasality and velopharyngeal function of patients following palateplasty.	Yuko Ogata	口腔顎顔面外科
日本口腔外科学会誌	上顎歯槽部歯槽骨折後の著しい歯槽骨萎縮に対して口蓋法による歯槽骨延長術を施行した1例.	野添悦郎	口腔顎顔面外科
Oral Science International	Three dimensional analysis of relationship between palatal morphology and palatalized articulation.	Mai Nishikubo	口腔顎顔面外科
日本医療マネジメント学会雑誌11巻Suppl. Page	形態素分析と辞書フィルターを活用した看護記録の監査方法に関する研究	鳥越千秋	医療情報部
日本医療マネジメント学会雑誌11巻Suppl. Page	円滑なクラーク導入を実現した教育・管理体制の構築と組織的取組みの評価	岩穴口孝	医療情報部
日本在宅医学会雑誌11巻1号 Page 65-68	遠隔医療を活用した教育	村永文学	医療情報部
日本医療マネジメント学会雑誌11巻Suppl. Page	チーム医療とIT 電子カルテは本当に便利なの? 医療や看護の質保証に電子カルテを活かす	宇都由美子	医療情報部
日本放射線技術学会雑誌66巻2号 Page 137-143	Diagnosis procedure combination (DPC) データによる肺の悪性腫瘍を対象としたコスト分析からみた画像検査の状況	信太圭一	医療情報部
日本医療マネジメント学会雑誌11巻Suppl. 医療情報学Suppl. 29 Page 429-432	医療マネジメントと物流管理 物流マネジメントに携わる国立大学病院の事務職員に期待すること	熊本一朗	医療情報部
医療情報学Suppl. 29 Page 410-413	施設基準としての看護必要度と患者個々に必要な看護量測定との比較・評価 (II)	宇都由美子	医療情報部
医療情報学Suppl. 29 Page 444-445	叙述的経時記録の実現を目指す看護記録システム改造とその評価	鳥越千秋	医療情報部
医療情報学Suppl. 29 Page 460-463	DPCデータを用いた標準的な診療計画の指標の検討～入院前後における画像診断状況による分析～	信太圭一	医療情報部
医療情報学Suppl. 29 Page 618-622	医療情報の質保証に不可欠なDPCコーディングの適正化に関する研究	岩穴口孝	医療情報部
医療情報学Suppl. 29 Page 768-771	患者要因を加味した放射線技術評価の可視化に関する研究 -単純X線撮影に焦点を当てて-	佐々木雅史	医療情報部
医療情報学Suppl. 29 Page 772-773	末梢静脈留置針管理への医療資源の投入に関する分析とその評価-看護システムに蓄積されたケアデータの二次利用による比較・分析-	松本智晴	医療情報部
International Journal of Antimicrobial Agents. 34, 91-94.	薬剤疫学データウェアハウスを用いた医薬品有害事象検知手法の評価	村永文学	医療情報部
Biological & Pharmaceutical Bulletin. 32, 493-496, 2009.	Correlation between voriconazole trough plasma concentration and hepatotoxicity in patients with different CYP2C19 genotypes.	Yamada K et al.	薬剤部
	Effect of methotrexate treatment on expression levels of organic anion transporter polypeptide 2, P-glycoprotein and bile salt export pump in rats.	Yamada K et al.	薬剤部

Journal of Applied Therapeutic Research, 7, 22-25, 2009.	Solubility of etoposide in infusions.	Yamada K et al.	薬剤部
Cancer Therapy, 7, 277-281, 2009.	Stability of hospital preparations of Azunol Water Gargles for pain relief in oral cancer patients with oral mucositis.	Yamada K et al.	薬剤部
Journal of Neurochemistry, 109, 158-167, 2009.	Contactin-associated protein (Caspr) 2 interacts with carboxypeptidase E in the CNS.	Yamada K et al.	薬剤部
Blood Coagulation & Fibrinolysis, 20, 176-184, 2009.	Enhanced platelet responsiveness due to chilling and its relation to CD40 ligand level and platelet-leukocyte aggregate	Yamada K et al.	薬剤部
Journal of Applied Therapeutic Research, 7, 11-14, 2009.	A retrospective study of the relationship between high-dose methotrexate chemotherapy-related toxicity and concomitant drugs: non-steroidal anti-inflammatory drugs and	Yamada K et al.	薬剤部
Journal of Applied Therapeutic Research, 7, 58-64, 2009.	Adverse events of superselective intra-arterial infusion chemotherapy in patients with oral cancer.	Yamada K et al.	薬剤部
International Journal of Antimicrobial Agents, 34, 589-591.	Correlation between meropenem and doripenem usage density and the incidence of carbapenem-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> .	Yamada K et al.	薬剤部
Developmental Biology, 336, 192-200, 2009.	Deficiency of neural recognition molecule NB-2 affects the development of glutamatergic auditory pathways from the ventral cochlear nucleus to the superior olivary complex in	Takeda Y et al.	薬剤部
Developmental Neurobiology, 69, 811-824, 2009.	Contribution of the neural cell recognition molecule NB-3 to synapse formation between parallel fibers and Purkinie cells in mouse.	Takeda Y et al.	薬剤部
Journal of Comparative Neurology, 513, 349-362, 2009	Preferential localization of neural cell recognition molecule NB-2 in developing glutamatergic neurons in the rat auditory brainstem.	Takeda Y et al.	薬剤部
Drug Metabolism and Pharmacokinetics, 25, 101-107, 2010.	Receptor-mediated uptake of human alpha 1-acid glycoprotein in into liver parenchymal cells in mice.	Matsumoto K et al.	薬剤部
TDM 研究, 26, 52-58, 2009.	シクロスポリンおよびタクロリムスのTDM支援ソフトウェアの開発	山田勝士ら	薬剤部
ICUとCCU 33:S161-S163, 2009	開心術後の非閉塞性腸管虚血 (Non-occlusive mesenteric ischemia)	清永夏絵	集中治療部
脈管学 49:147-152, 2009	近赤外線分光法による術中の脳酸素化状態モニタリング-トクロミド-測定はなぜ必要なのか?	垣花泰之	集中治療部
臨床放射線 (0009-9252) 54 巻6号	動注CTと造影超音波検査で特異な所見を示した肝類上皮血管内皮腫	北島信一 他	病理部

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 高松 英夫	
管理担当者氏名	薬剤部 山田 勝士	看護部長 窪田 美行
	臨床技術部長 福島 昇	
	総務課長 安武 博隆	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 各診療部門科 病歴管理室 薬剤部	(1)電子化後は1患者1記録となりID番号で分類 (2)エックス線フィルムの管理保存 ①CT、MRI、RIのエックス線フィルムについては放射線部で管理し保存している。 ②その他のエックス線フィルムは、各診療部門科で管理し保存している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医務課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務課 薬剤部	
第規 一則 号第 一掲 条の る十 体一 制第 一確 項保 各の 号状 及び 第九 条の 二十三 第一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医務課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療環境安全部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医務課	

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医務課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医務課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医務課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医務課	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床技術部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床技術部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床技術部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床技術部			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 高松 英夫
閲覧担当者氏名	総務課長 安武 博隆
閲覧の求めに応じる場所	総務課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	77.1%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A:紹介患者の数		11,988人
	B:他の病院又は診療所に紹介した患者の数		10,847人
	C:救急用自動車によって搬入された患者の数		344人
	D:初診の患者の数		19,193人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： (1) 安全管理に関する基本的考え方 (2) 組織に関する基本的事項 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 (5) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： (1) 医療の安全管理体制の確保に関する事 (2) 医療に関する安全管理指針に関する事 (3) 医療事故等の防止対策の検討及び推進に関する事 (4) 医療の安全管理のための教育及び研修に関する事 (5) その他医療の安全管理等に関する事	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 4 回
・ 研修の主な内容： 医療安全管理全般に係る研修あるいはシンポジウム、医療機器・医薬品・院内暴力・院内救急蘇生等のテーマ別研修を病院全職員にそれぞれ実施し、その他に新規採用者・中途採用者向けの研修を実施した。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 医療環境の変化に対応するため、「医療安全管理マニュアル」を毎年度改訂 (2) 医療安全管理強化月間(5月、11月)を設定	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(4名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
・ 所属職員： 専任(2)名 兼任(10)名 ・ 活動の主な内容： (1) 医療安全を確保するための改善方策に関する事 (2) 医療安全に係る教育・研修事業の企画及び運営に関する事 (3) インシデントに関する診療録や看護記録等への記載状況の確認・指導に関する事 (4) 患者や家族への説明等の対応状況の確認・指導に関する事 (5) 医療安全管理委員会の円滑な運営に関する事	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 趣旨(2) 院内感染対策の基本方針(3) 組織体制(4) 職員の教育及び研修・ (5) 報告・対応に関する基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容： 院内の感染状況の把握と防止対策（院内感染制御と患者の安全確保）	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 1 4 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 血液体液曝露防止(2) 抗菌薬の適正使用(3) 標準予防策・経絡別予防策(4) 肺結核症の臨床と予防(5) ノロウイルスの感染予防策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">(1) 機動性を重視するための規則改正(2) 院内全体の周知（メール等を活用した迅速な対応と委員会等での全体周知）(3) 病棟ラウンドの徹底(4) 病院長への連絡基準策定	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	④・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： (1) レナリドミドの適正使用について (2) インスリンの基本的な使い方と注意事項 (3) オピオイドローテーションとフェントス®テープの適正使用について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (④・無) ・ 業務の主な内容： (1) 医薬品の採用について (2) 医薬品の購入について (3) 調剤室における医薬品の管理について (4) 病棟における医薬品の管理について (5) 外来患者への医薬品使用について (6) 入院患者への医薬品使用について・・・「持参薬の取扱い」を追加予定	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (④・無) ・ その他の改善のための方策の填な内容：追加事項として (1) 医薬品安全使用に関して、平成 22 年度診療報酬改定に準拠して、医師や看護師への情報提供を行う前に薬剤部員への情報共有を徹底するために、月 1 回の会議を設けた。 (2) がん化学療法はレジメン管理（書類）のもとに運用してきたが、診療科・領域別のレジメンオーダーシステムの一部運用を開始し、システム化され抗がん剤の安全な使用や管理ができるように	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2回
<p>・ 研修の主な内容： 医療機器の取り扱い方法、点検方法、使用上の注意点、インシデント事例の紹介などの内容で年に2回行っている。また、部署により使用機器や使用状況が異なるため、部署ごとに随時行っている。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (○有・無) ・ 保守点検の主な内容： (1) 年度初めの医療機器安全管理担当者会議で策定した計画にそって部門毎に保守管理を行っている。病棟などで使用するME機器については、主にME部門で貸出点検、定期点検、故障修理を実施し、医療機器管理ソフトMARISによる管理を行っている。 (2) 医療機器安全管理担当者会議で、ME部門で行っている月毎の点検件数などを報告している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 医療機器情報担当者は、医薬品医療機器総合機構などから発信される医療機器安全情報を各部署のリスクマネージャに情報配信している。外部からの安全情報の内、院内で該当する機器については使用状況などを調査して職員への注意喚起を行っている。 (2) ME部門が病棟ラウンドを行い、機器の設定や使用状況を確認している。 (3) 医療機器に関する情報を全職員が閲覧できるシステムのWebMARISを導入した。今後、その医療機器管理ソフトを使用して、情報の共有化と管理システムの統一化を計画している。</p>	